

(資料提供)

月 日	担当館	電話	担当者
3月10日(火) 午後1時30分	徳島県立博物館	088-668-3636	辻野

令和7年度の発掘調査で新たに発見された恐竜化石2点について

(1) 概要

徳島県立博物館では、令和7年10月～12月に福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、県内の化石愛好家、阿波勝浦井戸端塾などの協力を得て、徳島県勝浦町の恐竜化石含有層（ボーンベッド）の発掘調査を実施した結果、280点の脊椎動物化石を発見し、うち2点は、恐竜化石であることが判明した。

(2) 発見された恐竜化石

1. 鳥脚類イグアノドン類の歯化石（1点）

種類：鳥脚類イグアノドン類（植物食恐竜）

大きさ：29.5 mm X 20 mm X 13 mm

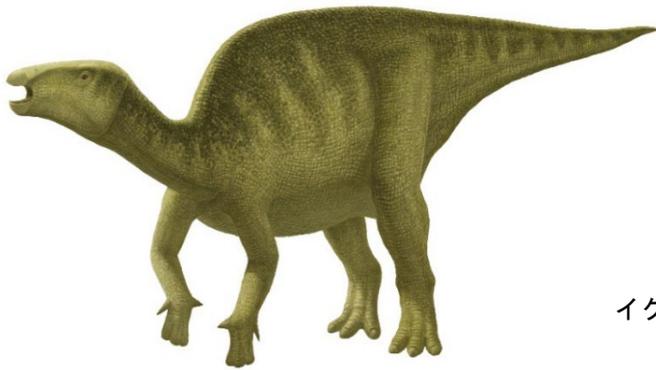
特徴：

- ① イグアノドン類の歯化石としては、県内で4点目の発見。
- ② これまで発見されてきたイグアノドン類の歯の中でも特に保存がよい。
- ③ 歯冠の縁には荒い鋸歯（ギザギザの刻み）が残されている。
- ④ 歯に見られる特徴から、左下顎の歯であることがわかる。
- ⑤ 徳島県において、イグアノドン類の下顎の歯の発見は、初めて。
- ⑥ 噛み合わせによる摩耗が先端部に見られるが、歯根が保存されており、生きている時に抜け落ちた歯ではなく、死後、顎から遊離したものである。
- ⑦ 歯の最大幅が20mmで、これまで発見されてきたイグアノドン類の歯の中でも最大級サイズである。

意義：化石の状態から、恐竜の死後、顎から遊離した歯であることがわかる。したがって、今後の発掘調査で顎化石などの発見が期待できる。また、幅が20mmと日本の他のイグアノドン類の歯と比較しても大きいサイズであることから、個体サイズとしても大きい可能性がある。



長さ 29.5 mm、幅 20 mm、厚さ 13 mm
(令和7年12月1日採集)



イグアノドン類の生体復元画
(画：山本 匠)

2. 竜脚類ティタノサウルス形類の歯化石（1点）

種類：竜脚類ティタノサウルス形類（植物食恐竜）

大きさ：19 mm X 12 mm X 9 mm

特徴：

- ① 竜脚類の歯化石としては、県内で14点目の発見。
- ② 歯の先端が欠けており根本しか残されていないが、これまでに発見された竜脚類の歯と同じようにティタノサウルス形類の歯であると考えられる。



長さ 19 mm、幅 12 mm、厚さ 9 mm
(令和7年11月2日採集)



ティタノサウルス形類の生体復元画
(画：山本 匠)

(3) 一般公開

日時 令和8年3月12日(木)から令和8年8月30日(日)まで
場所 徳島県立博物館 常設展 徳島恐竜コレクションコーナー

≪報道関係のみなさま≫

- ・画像を使用する際は、クレジットの記載をしてください。

写真「提供：徳島県立博物館」

復元画「提供：徳島県立博物館、画：山本 匠」